

令和元年度 教員地域貢献活動支援事業(協働型) 成果報告書

課題名	空き家利活用プロジェクト				
研究者	代表教員氏名	国際教養学部 教授 齊藤 広子			
	事業ユニットの構成(代表者除く)	国際商学部 教授	大澤 正俊	国際教養学部 教授	鈴木 伸治
提案者	京浜急行電鉄株式会社				
進捗状況及び課題					
<p>令和元年に関しては、大きくは以下の5点について進める予定であった。</p> <p>1. 空き家・すまいの相談会・セミナーの開催、2. 空き家を活用した「ヨコハマ郊外暮らし研究会」(はまっこ郊外暮らし検討会)の開催と具体的提案、3. 多世代ホームシェアの社会実験の実施、4. 国際交流シェアハウスの運営サポートと新たな体制作り、5. 空き家を活用した地域拠点作りの社会実験である。特に、2を中心に外部委員の参加をうけ、積極的に研究会を行い、公開コンペを行った。最終公開コンペシンポジウムは、新型コロナの影響により中止となった。1に関しては空き家を活用し、多様な形で実施できた。3についても社会実験を行い、報告書のとりまとめを行った。5についても新たな空き家により活動を開始したが、新型コロナの影響で中止している。4に関しては今までの活動成果をとりまとめ、学会で発表を行っている。</p>					
課題解決の方法					
<p>はまっこ郊外暮らし検討会の活動の継続と、新たな空き家を通じての新たな活動を継続して行っていく。活動が停止しているのは、新型コロナの影響であるが、この事態から、対面ではない方法での活動の在り方も模索していく予定である。また、中止したはまっこ郊外暮らしの公開コンペに関しては、何らかの方法で社会的に発信する方法を検討する。</p>					
研究実績報告(スケジュールと内容・成果)					
<p>1. 空き家・すまいの相談会・セミナーを開催した。空き家を活用した拠点フラットで4月から7月まで活動を実施した。多くの来場者を迎え、空き家に関する様々な相談に応じることができた。2019年4月から7月末。</p> <p>2. 空き家を活用した「ヨコハマ郊外暮らし研究会」(はまっこ郊外暮らし検討会)を開催した。5月より開催し、外部委員を迎え、積極的に活動を行ってきた。郊外暮らしの公開コンペを行い、優秀賞を発表した。2019年5月～2020年3月。</p> <p>3. 多世代ホームシェアの社会実験を実施した。金沢区で 高齢夫婦宅に、男子学生4年生1名がシェア居住する社会実験を11月に行った。実際に社会実験を行い、新たな課題が見えてきた。2019年11月～12月。また、高齢者約100名への聞き取り調査を実施した。2019年4月～11月。</p> <p>4. 国際交流シェアハウスの運営サポートと新たな体制作りを検討した。今までの取組状況、他のシェアハウスの取組み状況を調べ、日本建築学会住宅系論文発表会にて発表した。2019年12月。</p> <p>5. 空き家を活用した地域拠点作りの社会実験を行った。2019年12月～2020年2月。地主の意向を踏まえて、地域貢献型の空き家利活用の検討を実施している。</p>					
連携機関(提案者以外)	横浜市、金沢区				
得られた効果及び自己評価					
<p>はまっこ郊外暮らし検討会では、ゲスト講師を含めての街歩き、検討会等を重ねて実施し(全6回)、そこに横浜市立大学教職員、横浜市都市整備局、横浜市金沢区役所、京急電鉄などの参加で、多面的総合的実践的な意見交換を実施してきた。その成果として、郊外暮らしコンペを行い、多くの応募作品があり、優秀作品を選定した。こうしたプロセスで相互に学ぶことが多く、また、空き家利活用を実践につなげていくための新たな課題が見えてきている。</p> <p>上記の取組みは、先進的であり、発信力があるため、多くのマスコミなどの掲載があった。広く、成果が社会的にも還元されている。今後は、より実践の為の課題、連携の在り方を検討する必要がある。なお、新型コロナの影響以外では、研究は予定通りに進み、当初予定していたよりも多くのコンペへの応募があり、社会的に意義や影響力があったと評価している。</p>					
今後の課題と展開					
<p>今後の取組みとして、応募されてきた作品の共通点や特性など、郊外暮らしに求められている視点、新たに求められる主体、考え方を整理し、ビジネススキームの検討と、それを実践するための社会システムの在り方を検討する。また、令和2年度の活動として、新しい郊外の暮らし方の提案の具現化(2019年度に実施したコンペティションのアイデア具現化等)を目指す。空き家発掘・利活用に関する、行政等も含めた地域へのアプローチとして、空き家の利活用の啓発活動・空き家、空き地、空き店舗等の多様な利活用の可能性の検討・郊外住宅地の魅力の発信など、新たな手法の検討を行う。</p>					
研究発表(投稿準備中、投稿中、発表予定を含む)					
松林優奈(横浜市立大学)、齊藤広子:シェアハウスの運営管理の実態と課題 第14回住宅系研究報告会 2019年12月7日 発表					
研究成果による知的財産権の出願・取得状況					
知的財産権の名称	発明者名	権利者名	知的財産権の種類、番号	出願年月日(和暦)	取得年月日(和暦)
該当なし					